

前立腺肥大症治療薬 α_1 受容体遮断薬フロー図

2026年6月初版

薬価 2026.4

ウラピジル

先発 31.6円 30mg / 日

テラゾシン

先発 38.6円 2mg / 日

プラゾシン

先発 20.4円 3mg / 日

シロドシン

先発 46.2円 8mg / 日

後発 21.6～24.6円 8mg / 日

タムスロシン

先発 15.9円 0.2mg / 日

後発 13.0～15.9円 0.2mg / 日

ナフトピジル

先発 28.7円 50mg / 日

後発 10.8～12.3円 50mg / 日

めまい、起立性低血圧が起こりやすい

ウラピジル、テラゾシン、プラゾシン

高齢者では低用量から開始

ウラピジル、テラゾシン、プラゾシン、
ナフトピジル

肝機能障害者 血中濃度の上昇

ウラピジル、テラゾシン、プラゾシン、
シロドシン、タムスロシン、ナフトピジル

腎機能障害者には低用量から開始

テラゾシン、シロドシン、タムスロシン

1日1回の服用

タムスロシン、ナフトピジル

α_1 A 選択制

シロドシン

α_1 D 選択制

ナフトピジル

術中虹彩緊張低下症に注意

タムスロシン

射精障害の発現割合が高い

シロドシン

前立腺肥大症治療薬α₁受容体遮断薬

分類		第1世代			第2世代		
一般名		ウラピジル	テラゾシン	プラゾシン	シロドシン	タムスロシン	ナフトピジル
先発名		エブランチル	バソメット	ミニプレス	ユリーフ	ハルナールD	フリバス
規格		15mg、 30m g	0.25m g、 0.5m g 1m g、 2m g	0.5mg、 1m g	2m g、 4m g	0.1m g、 0.2m g	25m g、 50m g 75m g
剤形		カプセル	錠	錠	錠、OD錠	カプセル、OD錠	錠、OD錠
先発1錠薬価		15.8 35.4	6.3 11.3 19.3 35.2	6.3 6.8	14.1 23.1	9.9 15.9	15.4 28.7 34.9
後発1錠薬価		—	—	—	10.8 10.8～12.3	6.3～9.9 13.0～15.9	10.8 10.8～12.3 14.2～19.0
先発1日薬価		31.6/30m g	38.6/2m g	20.4/3m g	46.2/8m g	15.9/0.2m g	28.7/50m g
後発1日薬価		—	—	—	21.6～24.6/8m g	13.9～15.9/0.2m g	10.8～12.3/50m g
ガイドライン推奨グレード		A	A	C1	A	A	A
効能 効果	前立腺肥大症に伴う排尿障害	○	○	○	○	○	○
	本態性高血圧症	○	○	○			
	腎性高血圧症	○	○	○			
	褐色細胞腫による高血圧症	○	○	○			
	神経因性膀胱に伴う排尿障害	○					
用法用量		1回15m g 1日2回より開始 効果不十分な場合1日60～90m g 1日2回に分服	1回0.5m g 1日2回より開始 1日2m g に漸増し1日2回に分服	1回0.5m g 1日2～3回から開始 効果不十分な場合1日1.5m g～6m g に漸増1日2～3回に分服	1回4m g を1日2回	1回0.2m g を1日1回	1回25m g より開始50～75m g に1日1回
α 受容体選択制		α ₁ A≒α ₁ B≒α ₁ D	α ₁ A≒α ₁ B≒α ₁ D	α ₁ A≒α ₁ B≒α ₁ D	α ₁ A>>α ₁ B≒α ₁ D	α ₁ A>α ₁ D>α ₁ B	α ₁ D>α ₁ A>α ₁ B
Tmax(hr)		3.6	1	1.2	0.89～1.30	7.00～7.83	0.45
t1/2(hr)		3.8	10.1	2	5.77～5.85	10.3～11.7	15.2
主な代謝経路		肝代謝	肝代謝	肝代謝	肝代謝	肝代謝	肝代謝
排泄経路			腎排泄		腎排泄	腎排泄	
代謝酵素 (CYP)		CYP2D6	—	データなし	CYP3A4	—	CYP2C9 CYP3A4

効果・効能	第一推奨薬	第二推奨薬
前立腺肥大症に伴う排尿障害	タムスロシン（ハルナール®） 起立性低血圧、射精障害の懸念は低い 腎機能の低下した高齢者では低用量からの投与が必要 1日1回の投与 術中虹彩緊張低下症の発症に注意 ナフトピジル（フリバス®） 高齢者には低用量からの開始が必要 肝機能障害の患者には血中濃度が上昇する報告あり α₁D受容体選択制が高いため畜尿症状の改善に期待 1日1回の投与	シロドシン（ユリーフ®） 高齢者には低用量からの開始が必要 肝機能障害・腎機能障害のある患者には低用量からの開始が必要 α₁A受容体選択制が高いため射精障害の発現割合が高い 1日2回の投与

日本では2026年1月時点で前立腺肥大症治療薬 α₁受容体遮断薬には6種類の薬剤が販売されている
α₁受容体の分布には個人差がある

参照；診療ガイドラインUP-TO-DATE2024-2025
インタビューフォーム 添付文書

前立腺肥大症治療薬推奨後発品

- ・ タムスロシン
「サワイ」 「トーワ」 「明治」
- ・ ナフトピジル
「日医工」 「サワイ」 「タカタ」
- ・ シロドシンOD錠
「サワイ」 「DSEP」 「オーハラ」
- ・ シロドシン錠
「トーワ」 「JG」 「DSEP」